

夏といえば…、オリニマダン！

7月30日(木)に「小学生オリニマダン」、31日(金)に「中学生オリニマダン」がありました。

「オリニマダン」とは、韓国・朝鮮の言葉で「子どもの広場」という意味です。「オリニマダン」の始まりは1981年にさかのぼります。八尾市にたくさん在籍する韓国・朝鮮の子どもたちが集まり、活動し、語り合う場としてスタートしました。その後、中国やベトナムにルーツのある子どもたちも参加、さらに近年は渡日・来日してくる子どもたちの数が増え、国や地域、背景なども多様化したことで、「多文化キッズサマースクール・オリニマダン」として開催されるようになりました。現在、八尾市内ではすべての小中学校に、外国にルーツのある子どもたちが在籍しています。しかし、一つひとつの学校の状況は異なり、外国にルーツのある友だちが少数で在籍している学校も少なくありません。「オリニマダン」に参加することで、「こんなにたくさん外国にルーツのある仲間がいるんだ！」と、心強く感じる子どもたちもいます。外国にルーツのある子どもたちにとって、「オリニマダン」はとても大切な場所、つながりを作る場所なのです。

(『ハ外研ニュース No.208』より)

「オリニマダン」は、今年で46回目を迎えました。外国にルーツのある子どもたちが“出会い”、楽しく交流しながら“ふれあい”、そして、自分の“ルーツを知り、大切にする”ためのプログラムを行っていて、毎年多くの学校からたくさんの児童・生徒が参加します。

「小学生オリニマダン」では、多言語あいさつ、昆虫太極拳に始まり、班に分かれて(民族クラブでもおなじみの)「いろいろ金魚とりゲーム」などをしました。また、昼食後は1～3年生の部、4・5年生の部、6年生の部の三つに分かれて、ゲームなどで交流を深めました。

「中学生オリニマダン」では、自己紹介の後、子ども実行委員が考えたプログラム「じゃんけん列車」や、終始無言で誕生日の順番に並ぶゲーム「バースデーライン」をしました。昼食後は、おとな実行委員が考えたプログラムで、ゲームをしたり、先輩の話を聞いたりして交流を深めていきました。また、亀井小の卒業生が実行委員として頑張っていました。久しぶりの再会でした。

今年は残念ながら亀井小学校からの参加はゼロだったのですが、興味のある児童はぜひ参加し、他の学校の仲間たちと楽しいひと時を過ごしてほしいものです。

